

雪崩ビーコン概要説明書

(雪崩救助トランシーバー 457kHz)

・「最新雪崩学入門」「決定版雪崩学」を予め熟読すること！！

1. 使用方法の概要

- 使用前に ・ 電池チェック
 (ON/OFF差し込みスイッチを入れて(押し込みながら90度回転) コントロールランプが30~5回速く点滅することを確認)
 ・ 機能チェック(送信/受信を確認)
 ・ 使い方を再確認(概略は P.2~4)

⇒ 確認後はON/OFF差し込みスイッチを抜いて
 (押し込みながら90度回転) 必ず電源OFFに

- 入山時 ・ 上着の下に着用(着用法は本体に表示)
 ・ 発信モードに(コントロールランプが点滅)

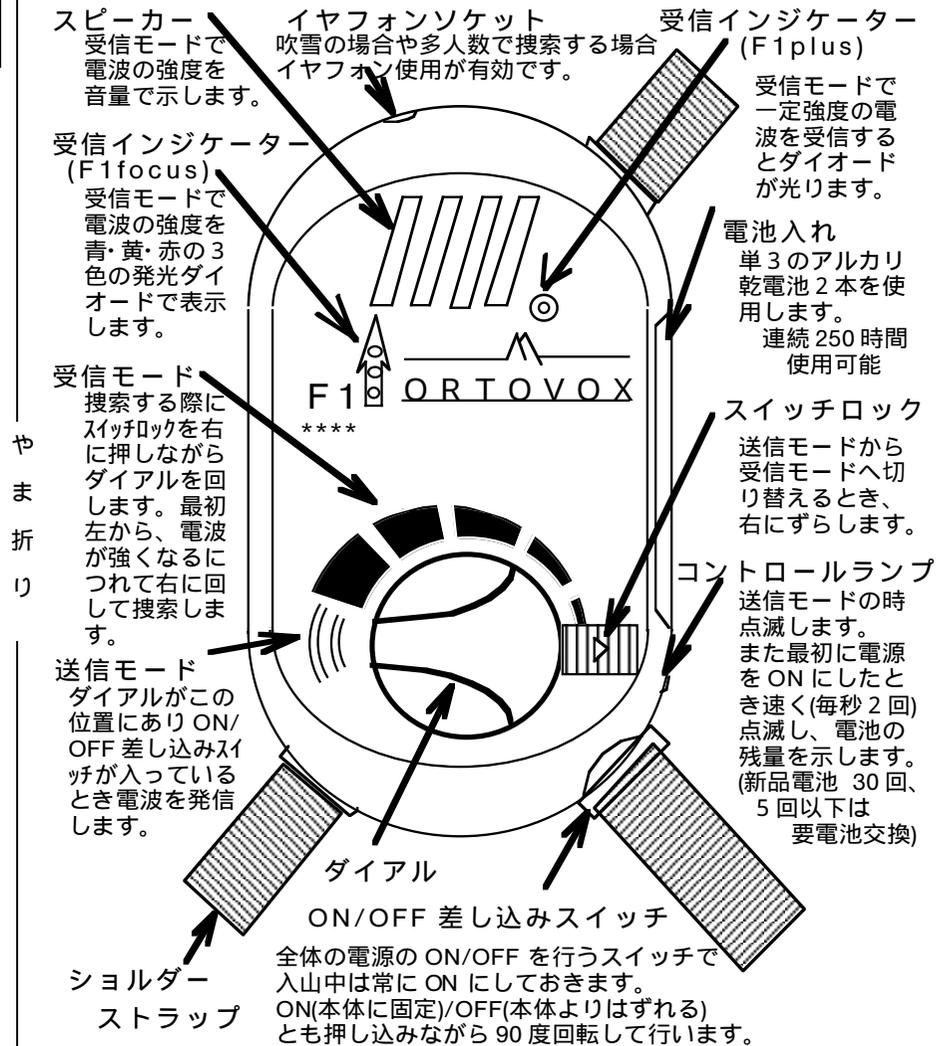
万一雪崩に仲間が巻き込まれたら・・・

- 受信モードにして搜索 ⇒ 搜索手順(P.4)
 二次雪崩発生 ⇒ 発信モードへ
 搜索終了 ⇒ 発信モードへ

下山時 ・ ON/OFF差し込みスイッチを抜いて電源OFFに

- 帰宅時 ・ 汚れはふき取り、乾燥させる。
 ・ 借りた場合、早急に持ち主へ返却。

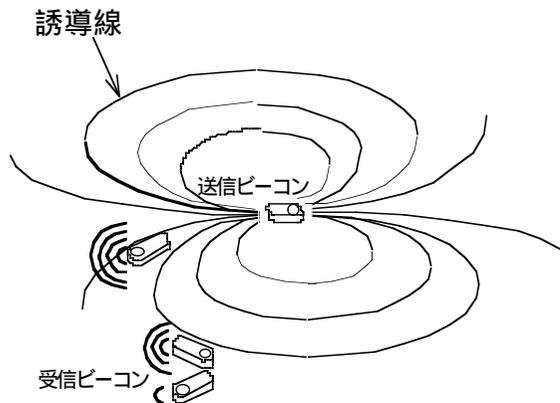
2. ビーコン各部の名称と機能



- * ショルダーストラップを用いた着用法は本体に表示してあります。
- * ダイヤルのある面(上記の面)は体に向けて着用します。

3 . ビーコンの原理と搜索方法

ビーコンから発信される電波特性



送信モードになっているビーコンからは左図のような電波が発信されています。

受信するビーコンと誘導線が平行になったとき、電波を一番良く受信することができます。(図中の)

さらに送信ビーコンに近づくと電波が強くなります。(図中の)

ビーコンによる搜索方法

1 . 初期搜索

遭難者以外の全ビーコンを受信モードにします。

⇒ 電波を受信できた場合はすぐに 2.絞り込み搜索へ遭難者の埋まっている可能性のある範囲を20m間隔で搜索し、電波を傍受します。

(本体に表示してある図を参照)

2 . 絞り込み搜索 (誘導線法)

絞り込み搜索は一現場一人で行います。

電波の一番強く受信できる方向を決定します。

約5m前進し、再び方向を修正します。電波が弱くなる場合は元の位置に戻り180度反対方向に進みます。

電波が強くなるにつれダイヤルを右に回しながら、

3m前進+方向修正を続け搜索します。

ダイヤルが右いっぱいになったら数mの範囲で遭難者をスコップ・ゾンデ棒で探します。(スカッフ&コールも併用)

や
ま
折
り

4 . 搜索手順

1. 自分の状態把握
 - ・けがはないか。動けるか。
 - ・落ちついて行動する。
2. 二次遭難の有無
 - ・再び雪崩が起こらないか。
 - ・起きたときの逃げる方向を確認。
3. 仲間の安否把握
 - ・埋没したのは誰か。身体の一部が見えている者はすぐに救助。

4. 避難、搜索方法の検討

・安全な場所を選定し負傷者を移動。

・残りの人員の役割分担。

二次雪崩の見張り

マーキングをする。

デブリ範囲、流失点、消失点、遺留品発見点

ビーコンによる搜索。

初期搜索 ⇒ 絞り込み搜索

スカッフ&コールで搜索

* 2時間が一つの目安、以後は救助隊による本格搜索

5. 記録を取る

・スケッチ

デブリ範囲のマーキングと時刻

搜索終了範囲と時刻

遭難者や装備品の発見場所と時刻

・伝令を出す場合 ⇒ 詳細な位置・遭難者の状況

6. 応急処置と搬出

・低体温症への対応 ・自力搬出 / 救助要請

W. Shimada 1995. 4 初版 / 1998. 1 第2版 / 2002. 12 第3版